

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学総論（外傷学、先天異常等含む）		
必修選択	選択	（学則表記）	臨床医学総論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）		出版社	一般社団法人 日本病院会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する		
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える		
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	武岡 宏明	実務経験	○
実務内容	九州大学や福岡大学病院の総合診療部にて医師として20年ほど勤務。現在は、福岡大学医学部医学教育推進講座講師として診療を行いながら勤務中。企業や学校の産業医としても勤務している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	病気になる原因	授業の流れや到達目標について 1. 健康と疾病 2. 疾病の原因
2	病気になる原因	3. 病気による組織・臓器の病理的变化 4. 病気の診断 5. 検査所見①（血液所見、尿検査）
3	病気になる原因	5. 検査所見②（画像検査以降） 6. 治療の方針
4	先天奇形、変形および染色体異常	1. 神経系の先天奇形 2. 眼、耳、顔面および頭部の先天奇形
5	先天奇形、変形および染色体異常	3. 呼吸器系の先天奇形 4. 唇裂および口蓋裂 5. 消化器系のその他の先天奇形
6	先天奇形、変形および染色体異常	6. 生殖器系の先天奇形 7. 腎尿路系の先天奇形 8. 筋骨格系の先天奇形および変形 9. 染色体異常、他に分類されないもの
7	損傷、中毒、その他の外因の影響	1. 軟部組織の損傷
8	損傷、中毒、その他の外因の影響	2. 各部位の損傷① （頭部損傷～胸部損傷）

9	損傷、中毒、 その他の外因の影響	2. 各部位の損傷② (腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷)
10	損傷、中毒、 その他の外因の影響	2. 各部位の損傷③ (肩および上腕の損傷～手首および手の損傷)
11	損傷、中毒、 その他の外因の影響	2. 各部位の損傷④ (股関節部および大腿の損傷～足首および足の損傷)
12	損傷、中毒、 その他の外因の影響	3. 薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒
13	損傷、中毒、 その他の外因の影響	4. 薬用を主としない物質の毒作用① (アルコール～農薬)
14	確認テスト	これまで学習した内容のテスト
15	損傷、中毒、 その他の外因の影響	4. 薬用を主としない物質の毒作用② (海産食品～その他) テスト内容の振り返り
16	総まとめ①	3章の総まとめ①を実施
17	総まとめ②	3章の総まとめ②を実施
18	総まとめ③	3章の総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学各論Ⅰ（感染症および寄生虫症）		
必修選択	選択	（学則表記）	臨床医学各論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	・診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編） ・診療情報管理士教育問題集			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する		
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える		
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	日吉 哲也	実務経験	○
実務内容	福岡大学病院など複数の医療機関にて、総合診療部の医師として10年ほど勤務している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 腸感染症・結核	コレラ～ウイルス性下痢症、肺結核～粟粒結核
2	人畜共通細菌性疾患	ペスト～レプトスピラ症
3	その他の細菌性疾患	ハンセン症～百日咳 猩紅熱～レジオネラ症、細菌の分類
4	主として性的伝播様式をとる感染症	梅毒～トリコモナス症
5	その他のスピロヘータ疾患	回帰熱～ライム病
6	クラミジアによる その他の疾患、リケッチア症	オウム病～トラコーマ、発疹チフス～Q熱
7	中枢神経系のウイルス感染症	急性灰白髄炎～日本脳炎
8	節足動物媒介ウイルス熱、 皮膚・粘膜病変ウイルス感染症	デング熱～ラッサ熱、ヘルペスウイルス感染症～尋常性疣贅

9	ウイルス肝炎	急性ウイルス肝炎、慢性ウイルス肝炎
10	ヒト免疫不全ウイルス病	HIV病およびHIV関連日和見感染症
11	その他のウイルス疾患	サイトメガロウイルス病～コロナウイルス感染症
12	真菌症、原虫疾患	皮膚糸状菌症～接合菌症 マラリア～ニューモシスチス肺炎
13	ぜん虫症、シラミ症、ダニ症	住血吸虫症～アニサキス症、疥癬
14	確認テスト	主要疾患テスト
15	テスト解説	テスト内容の振り返り、解説
16	総まとめ①	これまで学習した総まとめ①を実施
17	総まとめ②	これまで学習した総まとめ②を実施
18	総まとめ③	これまで学習した総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学各論Ⅱ（新生物）		
必修選択	選択	（学則表記）	臨床医学各論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）		出版社	一般社団法人日本病院会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する		
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える		
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	日吉 哲也	実務経験	○
実務内容	福岡大学病院など複数の医療機関にて、総合診療部の医師として10年ほど勤務している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 新生物概論・悪性新生物	新生物とは、新生物の分類 1. 口唇、口腔および咽頭の悪性新生物
2	悪性新生物	2. 消化器の悪性新生物① 食道癌、胃癌
3	悪性新生物	2. 消化器の悪性新生物② 消化管間葉系腫瘍～大腸癌
4	悪性新生物	2. 消化器の悪性新生物③ 肝・胆道系の悪性新生物
5	悪性新生物・確認テスト	2. 消化器の悪性新生物④ 膵癌
6	悪性新生物	3. 呼吸器および胸腔内臓器の悪性新生物
7	悪性新生物	4. 骨および関節軟骨の悪性新生物 5. 皮膚の黒色腫およびその他の悪性新生物 6. 中皮および軟部組織の悪性新生物
8	悪性新生物	7. 乳房の悪性新生物

9	悪性新生物	8. 女性生殖器の悪性新生物
10	悪性新生物・確認テスト	9. 男性生殖器の悪性新生物
11	悪性新生物	10. 腎尿路の悪性新生物
12	悪性新生物	11. 眼、脳およびその他の中枢神経系の部位の悪性新生物 12. 甲状腺およびその他の内分泌腺の悪性新生物
13	悪性新生物	13. リンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物 ①悪性リンパ腫、多発性骨髄腫 ②白血病 14. 上皮内新生物
14	確認テスト	これまで学習した内容のテスト
15	良性新生物	15. 良性新生物 テストの内容の振り返り
16	総まとめ①	これまで学習した総まとめ①を実施
17	総まとめ②	これまで学習した総まとめ②を実施
18	総まとめ③	これまで学習した総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学各論Ⅲ（血液・代謝・内分泌等）		
必修選択	選択	（学則表記）	臨床医学各論Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）		出版社	一般社団法人日本病院会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する		
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える		
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	武岡 宏明	実務経験	○
実務内容	九州大学や福岡大学病院の総合診療部にて医師として20年ほど勤務。現在は、福岡大学医学部医学教育推進講座講師として診療を行いながら勤務中。企業や学校の産業医としても勤務している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	血液系概論 （血液の組成、血液疾患の主要症状）
2	血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	1. 栄養性貧血・小テスト実施
3	血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	2. 溶血性貧血・小テスト実施
4	血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	3. 無形成性貧血およびその他の貧血・小テスト実施
5	血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	4. 凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態・小テスト実施
6	血液および造血器の疾患 ならびに免疫機構の障害	5. 血液および造血器のその他の疾患 6. 免疫機構の障害・確認テスト実施
7	内分泌、栄養および代謝疾患	内分泌系概論（内分泌とは、内分泌疾患、ホルモンの生成と作用） 1. 甲状腺障害①・小テスト実施
8	内分泌、栄養および代謝疾患	1. 甲状腺障害②・小テスト実施

9	内分泌、栄養および代謝疾患	2. 糖尿病・小テスト実施
10	内分泌、栄養および代謝疾患	3. その他のグルコース調節および膵内分泌障害 4. その他の内分泌腺障害① ・小テスト実施
11	内分泌、栄養および代謝疾患	4. その他の内分泌腺障害②・小テスト実施
12	内分泌、栄養および代謝疾患	4. その他の内分泌腺障害③ ・確認テスト実施
13	内分泌、栄養および代謝疾患	5. 栄養失調症 6. その他の栄養欠乏症 7. 肥満その他の過栄養 8. 代謝障害①・小テスト実施
14	内分泌、栄養および代謝疾患	8. 代謝障害②・小テスト実施
15	内分泌、栄養および代謝疾患	8. 代謝障害③
16	総まとめ①	これまで学習した総まとめ①を実施
17	総まとめ②	これまで学習した総まとめ②を実施
18	総まとめ③	これまで学習した総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学各論Ⅳ（精神・脳神経・感覚器系等）		
必修選択	選択	（学則表記）	臨床医学各論Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）			出版社	一般社団法人 日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する				
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安元 佐和			実務経験	○
実務内容	福岡大学医学部 医学教育推進講座主任教授として勤務中。また、福岡市児童相談所小児科委託医など、福岡市内の子どもを中心とした福祉活動にも従事している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 精神および行動の傷害	1. 症状性を含む器質性精神障害 2. 精神作用物質使用による精神および行動の障害
2	精神および行動の傷害	3. 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害 4. 気分障害 5. 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
3	精神および行動の傷害	6. 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 7. 成人のパーソナリティおよび行動の障害
4	精神および行動の傷害	8. 知的障害 9. 心理的発達障害 10. 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
5	神経系の疾患	1. 中枢神経系の炎症性疾患 2. 主に中枢神経を障害する系統萎縮症
6	神経系の疾患	3. 錐体外路障害および異常運動 4. 神経系のその他の変性疾患
7	神経系の疾患	5. 中枢神経系の脱髄疾患 6. 挿間性および発作性障害

8	神経系の疾患	7. 神経、視神経および神経叢の障害 8. 多発性ニューロパシーおよびその他の末梢神経系の障害
9	神経系の疾患	9. 神経筋接合部および筋の疾患 10. 脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群 11. 神経系のその他の障害
10	眼および付属器の疾患	1. 眼瞼、涙器および眼窩の障害 2. 結膜の障害
11	眼および付属器の疾患	3. 水晶体の障害 4. 脈絡膜および網膜の障害 5. 緑内障
12	眼および付属器の疾患	6. 硝子体および眼球の障害 7. 視神経および視路の障害 8. 眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害
13	耳および乳様突起の疾患	1. 外耳疾患 2. 中耳および乳様突起の疾患
14	確認テスト	単元の確認テスト
15	テストの振り返り	テスト内容の振り返り、解説
16	総まとめ①	これまで学習した総まとめ①を実施
17	総まとめ②	これまで学習した総まとめ②を実施
18	総まとめ③	これまで学習した総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学各論Ⅴ（循環器・呼吸器系）		
必修選択	選択	（学則表記）	臨床医学各論Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）		出版社	一般社団法人日本病院会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する		
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える		
評価基準	確認テスト40%、小テスト30%、授業姿勢30%		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	日吉 哲也	実務経験	○
実務内容	福岡大学病院など複数の医療機関にて、総合診療部の医師として10年ほど勤務している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 循環器系の疾患	1. 急性リウマチ熱 2. 慢性リウマチ性心疾患
2	循環器系の疾患	3. 循環器系の先天奇形
3	循環器系の疾患	4. 高血圧性疾患
4	循環器系の疾患	5. 低血圧症 6. 虚血性心疾患
5	循環器系の疾患	7. 肺性心疾患および肺循環疾患
6	循環器系の疾患	8. その他の型の心疾患
7	循環器系の疾患	9. 脳血管疾患
8	循環器系の疾患	10. 動脈、細動脈および毛細血管の疾患

9	循環器系の疾患	11. 静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患
10	呼吸器系の疾患	1. 急性上気道感染症 2. インフルエンザおよび肺炎 3. その他の急性下気道感染症
11	呼吸器系の疾患	4. 上気道のその他の疾患 5. 慢性下気道疾患
12	呼吸器系の疾患	6. 外的因子による肺疾患 7. 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患
13	呼吸器系の疾患	8. 下気道の化膿性および壊死性病態 9. 胸膜のその他の疾患 10. 呼吸器系のその他の疾患
14	確認テスト	単元の確認テスト
15	テストの振り返り	テスト内容の振り返り、解説
16	総まとめ①	これまで学習した総まとめ①を実施
17	総まとめ②	これまで学習した総まとめ②を実施
18	総まとめ③	これまで学習した総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学各論Ⅵ(消化器・泌尿器系)		
必修選択	選択	(学則表記)	臨床医学各論Ⅵ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅰ 基礎・医学編		出版社	一般社団法人 日本病院会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する		
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える		
評価基準	小テスト３０％、確認テスト４０％、授業態度３０％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	武岡 宏明	実務経験	○
実務内容	九州大学や福岡大学病院の総合診療部にて医師として20年ほど勤務。現在は、福岡大学医学部医学教育推進講座講師として診療を行いながら勤務中。企業や学校の産業医としても勤務している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	消化器系の主症状と検査	授業の流れ、到達目標について 食道、胃・十二指腸、小腸・大腸における主症状と検査項目
2	消化器系の疾患①	1. 口腔、唾液腺および顎の疾患
3	消化器系の疾患②	2. 食道、胃および十二指腸の疾患
4	消化器系の疾患③	3. 虫垂の疾患 4. ヘルニア
5	消化器系の疾患④	5. 非感染性腸炎および非感染性大腸炎
6	消化器系の疾患⑤	6. 腸のその他の疾患 7. 腹膜の疾患 8. 肝疾患
7	消化器系の疾患⑥	9. 胆嚢、胆管および膵の障害（主な疾患） 10. 消化器系のその他の疾患

8	泌尿器系の主症状と検査 泌尿器系の疾患①	腎臓における主症状と検査項目 1.糸球体疾患
9	泌尿器系の疾患②	2. 腎尿細管間質性疾患
10	泌尿器系の疾患③	3. 腎不全
11	泌尿器系の疾患④	4. 尿路結石症
12	泌尿器系の疾患⑤	5. 腎および尿管のその他の障害 6. 尿路系のその他の疾患 7. 男性生殖器の疾患
13	泌尿器系の疾患⑥	8. 乳房の障害 9. 女性骨盤臓器の炎症性疾患 10. 女性生殖器の非炎症性疾患
14	確認テスト	1～16までの総まとめテスト
15	テストの振り返り	テストの内容を振り返り、消化器系、泌尿器系の疾患に関する理解度を高める。
16	総まとめ①	これまで学習した総まとめ①を実施
17	総まとめ②	これまで学習した総まとめ②を実施
18	総まとめ③	これまで学習した総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学各論Ⅶ（周産期系）		
必修選択	選択	（学則表記）	臨床医学各論Ⅶ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎医学編）			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する				
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	安元 佐和			実務経験	○
実務内容	福岡大学医学部 医学教育推進講座主任教授として勤務中。また、福岡市児童相談所小児科委託医など、福岡市内の子どもを中心とした福祉活動にも従事している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	序論	排卵から受精、着床、妊娠、分娩までの流れ、正常妊娠について
2	妊娠、分娩および産褥	正常妊娠・正常分娩
3	妊娠、分娩および産褥	1／異所性妊娠
4	妊娠、分娩および産褥	1／異所性妊娠続き、胎状奇胎
5	妊娠、分娩および産褥	1／自然流産
6	妊娠、分娩および産褥	2／妊娠高血圧症候群、3／妊娠悪阻
7	妊娠、分娩および産褥	4／多胎妊娠、胎位異常、回旋進入の異常
8	妊娠、分娩および産褥	4／児頭骨盤不均衡、羊水過多症、羊水過少症

9	妊娠、分娩および産褥	4／前期破水、前置胎盤、胎盤早期剥離、過期妊娠
10	妊娠、分娩および産褥	5／早産、微弱陣痛、遷延分娩、分娩における会陰裂傷、その他の産科的外傷、弛緩出血
11	妊娠、分娩および産褥	6／分娩、7／産褥性敗血症、羊水塞栓症
12	周産期に発生した病態	低出産体重児、新生児仮死、新生児呼吸窮迫症候群
13	周産期に発生した病態	新生児一過性多呼吸、新生児溶血性疾患、核黄疸、新生児黄疸
14	確認テスト	第1回～第13回で学習した内容に関する確認テストの実施
15	テストの振り返り	確認テストの内容の振り返り
16	総まとめ①	これまで学習した総まとめ①を実施
17	総まとめ②	これまで学習した総まとめ②を実施
18	総まとめ③	これまで学習した総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	臨床医学各論Ⅷ（皮膚・筋骨格系等）		
必修選択	選択	(学則表記)	臨床医学各論Ⅷ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎医学編）			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	①疾患の原因を解剖生理学の観点から理解する ②各疾患に特異的な用語を習得する				
到達目標	①該当領域における主要な疾患の名称を覚える ②解剖生理学の知識をもとに、疾患の原因を理解する ③各病気に関連する重要用語を覚える				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	日吉 哲也			実務経験	○
実務内容	福岡大学病院など複数の医療機関にて、総合診療部の医師として10年ほど勤務している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	序論	皮膚科症状の主症状と治療法
2	皮膚および皮下組織の疾患	1/蜂巣炎、2/尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡、水疱性類天疱瘡、3/アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎
3	皮膚および皮下組織の疾患	3/接触性皮膚炎、貨幣状皮膚炎、異汗症、自家感作性皮膚炎、薬疹、痒疹
4	皮膚および皮下組織の疾患	4/乾癬、5/蕁麻疹、多型紅斑、スティーブンス・ジョンソン症候群、結節性紅斑、6/放射線皮膚炎
5	皮膚および皮下組織の疾患	7/円形脱毛症、ざ瘡、尋常性ざ瘡、表皮嚢胞、8/脂漏性角化症、褥瘡、
6	皮膚および皮下組織の疾患	8/エリテマトーデス、強皮症、ヘノッホ・シェーンライン症候群、白癬、カンジダ症
7	皮膚および皮下組織の疾患	8/蕁風、帯状疱疹、疣贅、母斑、悪性黒色腫、9/基底細胞癌、有棘細胞癌
8	筋骨格系および結合組織の疾患	1/化膿性関節炎、関節リウマチ、若年性関節リウマチ、成人スチル病、痛風

9	筋骨格系および結合組織の疾患	2／結節性多発動脈炎、川崎病、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎
10	筋骨格系および結合組織の疾患	2／全身性硬化症、ベーチェット病 3／脊柱側弯症、脊椎分離症、脊椎すべり症、
11	筋骨格系および結合組織の疾患	3／脊柱管狭窄症、強直性脊椎炎、頸椎椎間板ヘルニア、腰椎椎間板ヘルニア
12	筋骨格系および結合組織の疾患	4／筋炎、筋の石灰化および骨化、滑膜炎および腱鞘炎、その他
13	筋骨格系および結合組織の疾患	5／骨粗鬆症、骨軟化症・くる病、骨髄炎、
14	確認テスト	第1回～第13回で学習した内容に関する確認テストの実施
15	振り返り	確認テストの内容の振り返り
16	総まとめ①	これまで学習した総まとめ①を実施
17	総まとめ②	これまで学習した総まとめ②を実施
18	総まとめ③	これまで学習した総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療管理総論		
必修選択	選択	(学則表記)	医療管理総論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅲ			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	①「人的資源」、「物的資源」、「財的資源」、「情報資源」について理解する。 ②医療関連法規と共に日本の医療制度についての知識を習得する。				
到達目標	①診療情報管理士病院実習・就職に必要な診療情報管理士の知識を習得する。 ②認定試験に必要な知識を習得する。				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	平田 寛			実務経験	○
実務内容	福岡県内の総合病院で、救急、薬剤部、手術室、総務、医事課、診療情報管理室で課長、室長等を24年勤務、また、福岡市内の医療事務系の専門学校にて教員8年間勤務。現在、福岡市内の病院の診療情報管理室で勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1-1 医療資源	1-1-1 物的資源
2	1-1 医療資源	1-1-2 人的資源(P13～P16)
3	1-1 医療資源	1-1-2 人的資源 (P17～P22) 1-1-3 財的資源 1-1-4 情報資源
4	1-2 日本の医療制度	1-2-1 医療保障 1-2-2 医療制度の詳細 (P25～P30) 医療保険・公費負担医療・任意保険
5	1-2 日本の医療制度	1-2-2 医療制度の詳細 (P30～P33) 医療制度の特徴・医療制度の成り立ち・医療法・諸外国の医療制度
6	1-2 日本の医療制度	1-2-3 国民医療費の現状と将来
	1-3 医療の需要と供給	1-3-1 人口の推移

7	1-4 地域医療	1-3-2 医療需要・医療供給 1-3-3 顕在需要と潜在需要 1-4-1 地域医療
8	1-4 地域医療	1-4-2 医療の提供構造 1-4-3 医療計画
9	1-4 地域医療	1-4-3 医療計画 医療計画の内容
10	1-5 医療関連の法規定	1-5-1 医療と保健衛生活動に関する法規
11	1-5 医療関連の法規定	1-5-2 社会保障や保健および福祉に関する法規 1-5-3 医療費支払い保険制度に関する法規 1-5-4 その他、病院の医療活動に関する主な法規
12	1-5 医療関連の法規定	1-5-5 健康に関する主な法規 1-5-6 感染症法 1-5-7 医薬品などに関する法規
13	1-5 医療関連の法規定	1-5-8 災害時に適用される法規 1-5-9 職員に関する法規
14	評価テスト	評価テストの実施
15	1-5 医療関連の法規定	1-5-10 がん対策基本法・がん対策推進計画（2次） 1-5-11 個人情報の保護に関する法律と指針（ガイドライン）
16	総まとめ①	評価テストの解説・総まとめ
17	総まとめ②	総まとめ
18	総まとめ③	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療管理各論Ⅱ(医療保険・介護保険制度)		
必修選択	選択	(学則表記)	医療管理各論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅲ			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	①医療保険制度やDPC制度、介護保険制度の知識を習得する。 ②診療情報管理士の実務に必要なDPC/PDPSの知識を習得する。		
到達目標	①診療情報管理士病院実習・就職に必要な診療情報管理士の知識を習得する。 ②認定試験に必要な知識を習得する。		
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	平田 覚	実務経験	○
実務内容	福岡県内の総合病院で、救急、薬剤部、手術室、総務、医事課、診療情報管理室で課長、室長等を24年勤務、また、福岡市内の医療事務系の専門学校にて教員8年間勤務。現在、福岡市内の病院の診療情報管理室で勤務。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	3-1 医療保険制度	3-1-1 医療保険の種類と保険給付・保険外給付
2	3-1 医療保険制度	3-1-2 わが国の診療報酬制度 3-1-3 保険診療と医療費の支払いの仕組み
3	3-1 医療保険制度／小テスト	3-1-4 診療報酬の請求について
4	3-2 わが国の診断群分類	3-2-1 ケースミックス区分法と診断群分類 3-2-2 わが国の診断群分類誕生の背景
5	3-2 わが国の診断群分類	3-2-3 DPC ・DPC対象患者 ・DPCの構造
6	3-2 わが国の診断群分類	3-2-3 DPC ・実際のDPC選択の例
7	3-2 わが国の診断群分類	3-2-4 DPCと包括評価
8	3-2 わが国の診断群分類	3-2-4 DPCと包括評価 ・DPCによる包括支払いの算定方法

9	3-2 わが国の診断群分類	3-2-4 DPCと包括評価 ・基礎係数の導入と医療機関群の設定 ・基礎係数（医療機関群）について
10	3-2 わが国の診断群分類	3-2-4 DPCと包括評価 ・機能評価係数Ⅱについて ・機能評価係数Ⅱの見直し：2018年度
11	3-2 わが国の診断群分類／小テスト	3-2-4 DPCと包括評価 ・DPC/PDPS算定の一例（事例）
12	3-3 介護保険制度の概要	・介護保険制度創設の経緯 ・介護保険制度創設 ・介護保険制度のしくみ
13	3-3 介護保険制度の概要 3-4 介護保険制度の概要	・申請からサービス利用開始までの流れ ・介護報酬の請求
14	評価テスト	評価テスト
15	振り返り	解説と総まとめ
16	総まとめ①	3章の総まとめ①を実施
17	総まとめ②	3章の総まとめ②を実施
18	総まとめ③	3章の総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療管理各論Ⅲ(医療安全・医療の質管理)		
必修選択	選択	(学則表記)	医療管理各論Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅲ			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療安全、医療の質管理、院内データの活用について習得する。				
到達目標	①診療情報管理士病院実習・就職に必要な診療情報管理士の知識を習得する。 ②認定試験に必要な知識を習得する。				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松田 まゆみ			実務経験	○
実務内容	久留米大学病院にて診療情報管理士として診療情報管理業務全般に従事している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	4-1 安全管理	4-1-1 医療安全概論
2	4-1 安全管理	4-1-2 医療におけるリスクマネジメント
3	4-1 安全管理	4-1-3 ヒューマンエラー
4	4-1 安全管理	4-1-4 医療事故と医療過誤、医事紛争 「診療記録と医療事故」「医療事故」「医療事故対策」「医療安全管理者の配置と役割」
5	4-1 安全管理	4-1-4 医療事故と医療過誤、医事紛争 「医事紛争・訴訟に関わる概念・用語」「医療訴訟の現状」 「医療訴訟の原因と対策」「医療事故調査制度」
6	小テスト	4-1 小テスト&解説
7	4-2 医療の質管理	4-2-1 医療の質と保証
8	4-2 医療の質管理	4-2-2 チーム医療における診療情報共有 4-2-3 医療の質マネジメントシステム

9	4-2 医療の質管理	4-2-4 医療の質の評価と公表 「診療情報の公開」「医療機能情報提供制度」「病床報告機能制度」 「病院情報の公表」「医療評価の目的」
10	4-2 医療の質管理	4-2-4 医療の質の評価と公表 「医療評価の歴史」「医療評価の方法」「質評価の実際」
11	小テスト	4-2 小テスト&解説
12	4-3 診療情報管理における 診療報酬請求データの活用	4-3-1 医療マーケティング 4-3-2 診療情報管理におけるデータの活用
13	4-3 診療情報管理における 診療報酬請求データの活用	4-3-3 電子カルテデータ、オーダデータと医事会計データ 4-3-4 診療情報管理データと医事会計データ
14	確認テスト	確認テストの実施
15	確認テストの振り返り・解説	確認テストの振り返り・解説
16	総まとめ①	4-1まとめ
17	総まとめ②	4-2まとめ
18	総まとめ③	4-3まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	保健医療情報学		
必修選択	選択	(学則表記)	保健医療情報学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅲ			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	診療情報管理士として、病院情報システムに携わる際の基礎知識を習得する。				
到達目標	①診療情報管理士病院実習・就職に必要な診療情報管理士の知識を習得する。 ②認定試験に必要な知識を習得する。				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	平田 覚			実務経験	○
実務内容	福岡県内の総合病院で、救急、薬剤部、手術室、総務、医事課、診療情報管理室で課長、室長等を24年勤務、また、福岡市内の医療事務系の専門学校にて教員8年間勤務。現在、福岡市内の病院の診療情報管理室で勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 5-1 保健医療情報学とは	授業の流れ、到達目標について ・情報の概念・保健医療情報学とは ・保健医療情報学と診療情報管理士
2	5-2 医療情報の特徴と種類	・医療情報と診療情報 ・診療情報の種類と特性
3	5-2 医療情報の特徴と種類	・診療情報の種類と特性 ・診療情報の一次利用と二次利用
4	5-3 行政が進める医療の情報化政策	・保健医療の情報化政策の歴史と関連法令 ・今後の方向性
5	5-4 医療情報システム	・医療情報システムとは ・病院情報システム概論 ・部門の業務を支える情報システム
6	5-4 医療情報システム	・オーダエントリシステム ・電子カルテシステム
7		

8		
9	5-4 医療情報システム	・地域医療情報システム
10	5-5 診療情報の二次利用 5-6 個人が管理する保健医療記録	・データウェアハウス ・医療ビッグデータ ・治験 ・次世代医療基盤法の成立 ・診療情報管理士の役割 ・HERとPHR ・実装の動向
11	5-7 医療情報の標準化	・標準化の枠組み ・医療情報の伝送・交換のための標準化 ・医療情報分野における用語・コードの標準化
12	5-7 医療情報の標準化 5-8 情報セキュリティ	・ICD10対応標準病名マスター ・保健医療情報分野の標準規格 ・診療情報の安全管理 ・医療情報システムにおけるセキュリティ対策
13	5-8 情報セキュリティ	・医療情報システムの安全管理に関するガイドライン ・医療情報システムの安全管理 ・診療情報管理士として実践すべき事項
14	評価テスト	評価テストを実施
15	5-9 保健医療の情報化のこれから 5-10 人を対象とする 医学系研究に関する倫理指針	・保健医療の情報化のこれから ・人を対象とする医学系研究に関する倫理指針
16	総まとめ①	5章の総まとめ①を実施
17	総まとめ②	5章の総まとめ②を実施
18	総まとめ③	5章の総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医療統計Ⅰ（統計理論）		
必修選択	選択	（学則表記）	医療統計Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	診療情報管理Ⅲ			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	①統計学の用語を正しく理解し、統計的な考え方を習得する。 ②診療情報を活用するための基礎として統計処理の基礎知識、根拠に基づいた医療、データ処理の実際を学び、診療情報管理士に求められる診療情報のクオリティマネジメントの考え方を習得する。				
到達目標	①診療情報管理士病院実習・就職に必要な診療情報管理士の知識を習得する。 ②認定試験に必要な知識を習得する。				
評価基準	確認テスト40%、小テスト30%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目	医療統計Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	来島 裕太			実務経験	○
実務内容	都志見病院、長門総合病院で薬剤事務・医療事務・診療情報管理業務・がん登録業務に携わった。現在は、山口県立総合医療センターにて、診療情報管理を全般的に行っている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 6-1 医療統計学の基本的な用語	医療統計学の基本的な用語について
2	6-2 データを要約する	データの要約の作業手順
3		データの要約に用いる記述統計量 （量的データの記述統計量、代表値と散布度、質的データの記述統計量）
4	6-2 データを要約する 6-3 確立と確率分布	・生存時間変数の記述統計量 ・相対度数による確率、確率分布
5	6-4 正規分布	正規分布の性質について
6		標準正規分布 $N(0, 1^2)$ 、標準正規分布を使った一般の正規分布の確率計算
7	6-5 2つの変数の相関を調べる	相関とは、相関係数、強い相関・弱い相関、相関分析の例、相関係数の解釈における注意点
8	6-6 一般の変数からもう一方の変数の値を予測する（回帰分析）	回帰分析の例

9	6-7 推測統計の基礎	推測統計で使われる用語の定義、身近で使われている推測統計、母集団と標本の関係、母集団と標本の記述に関する約束ごと
10	6-8 推定	推定の定義、推定の利用事例、点推定と区間推定
11		実践的な推定方法のまとめ、推定の例
12	6-9 仮説検定	有意差検定、仮説検定の手順、帰無仮説と対立仮説、有意水準
13		検定統計量、P値、有意水準とP値の関係、乳幼児データにおける喫煙群と非喫煙群のBWの母平均の有意差検定
14	確認テスト	医療統計Ⅰの確認テスト
15	確認テスト振り返り・総まとめ 6-11 医学でよく使う仮説検定	・ 確認テストの振り返りと解説 ・ 医療データ検定でよく用いられる検定について

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	国際統計分類Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	国際統計分類Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅲ		出版社	一般社団法人日本病院会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	①わが国の人口動態統計の仕組みと意義を理解する。 ・国際疾病分類（歴史、現状など）の知識を習得する。 ・国際統計分類群（ファミリー）の知識を習得する。 ・原死因、主要病態選択ルールについて理解する。		
到達目標	①診療情報管理士病院実習・就職に必要な診療情報管理士の知識を習得する。 ②認定試験に必要な知識を習得する。		
評価基準	小テスト30％、確認テスト40％、授業姿勢30％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目	国際統計分類Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	松田　まゆみ	実務経験	○
実務内容	久留米大学病院にて診療情報管理士として診療情報管理業務全般に従事している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	11-1-1 わが国の人口動態統計	11-1-1 1.疾病分類とその意義 2.国際疾病分類の使用目的
2	11-1-1 わが国の人口動態統計	11-1-1 3.国際疾病分類のわが国の利用 4.国際疾病分類を利用した統計分類法
3	11-1-2 国際疾病分類（ICD）の歴史 11-1-3 国際疾病分類（ICD）の現状	11-1-2 1.「国際疾病分類」誕生までの歴史 2.「国際疾病分類」誕生とその後 11-1-3 1.ICD-10の改善
4	11-1-4 国際疾病分類（ICD）の構造1~2	1.ICD-10編さんの基準 2.国際疾病分類第10回改訂（ICD-10（2013年版）の基本体系
5	11-2-1 国際統計分類ファミリー論の概念と構想 11-2-2 国際統計分類ファミリーに含まれる分類	11-2-1 国際統計分類ファミリー（WHO-FIC）の概念と構想 11-2-2 1.国際生活機能分類（ICF） 2.国際疾病分類－腫瘍学（ICD-O） 3.医療行為に関する分類とICHI
6	11-2-2 国際統計分類ファミリーに含まれる分類	11-2-2 1.国際生活機能分類（ICF）
7	11-2-2 2.国際疾病分類－腫瘍学（ICD-O） 11-2-2 3.医療行為に関する分類とICHI	11-2-2 2.国際疾病分類（ICD-O） 3.医療行為に関する分類とICHI

8	11-3-1 原死因選択ルール	11-3-1 1.死因の定義と死亡診断書
9	11-3-1 原死因選択ルール	11-3-1 2.原死因の選択ルール 3.各原則・ルールの内容
10	11-3-1 原死因選択ルール	11-3-1 3.各原則・ルールの内容 4.周産期死亡について
11	11-3-2 主要病態のコーディングと再選択ルール	11-3-2 1.主要病態の定義 2.主要病態の再選択のルール
12	11-3-2 主要病態のコーディングと再選択ルール	11-3-2 1.主要病態の定義 2.主要病態の再選択のルール 3.「主要病態」および「その他の病態」のコーディングのためのガイドライン
13	11-3-3 ICDを用いるうえでの注意点	11-3-3 1.コーディングの目的 2.コーディングに際しての心構え 3.情報の精度を高めるために
14	評価テスト	評価テストの実施
15	振り返り	振り返り
16	総まとめ①	11章の総まとめ①を実施
17	総まとめ②	11章の総まとめ②を実施
18	総まとめ③	11章の総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	国際統計分類Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	国際統計分類Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅲ			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	① I C D - 1 0 の基本体系と各章の特徴を理解する。 ②正確な疾病コードが付与できるようにコーダーとしての技術の習得をする。		
到達目標	①診療情報管理士病院実習・就職に必要な診療情報管理士の知識を習得する。 ②認定試験に必要な知識を習得する。		
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	診療情報管理士		
関連科目	国際統計分類Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	松田 まゆみ	実務経験	○
実務内容	久留米大学病院にて診療情報管理士として診療情報管理業務全般に従事している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	12-1 国際疾病分類の基本	・ コーディングの目的、注意事項を理解し正確な分類を目指す ・ 認定試験で出題傾向にある、編さんの基準、特長について理解する
2	12-1 国際疾病分類の基本	ICD1巻、3巻の使用方法、複数・複合・二重分類他について理解する
3	12-1 国際疾病分類の基本	12-1-7～12-1-9 用語、病名の構成、索引方法について理解する 12-2-17～12-2-20 各章の特徴、コーディングについて理解する ※コードの付け方、注意点も一緒に習得する 12-2-21～12-2-22 原原因コーディングについて理解する
4	12-2 各章の疾病分類体系の理解	12-2-1 第Ⅰ章、第Ⅱ章 各章の特徴、コーディングについて理解する
5	12-2 各章の疾病分類体系の理解	12-2-2 第Ⅱ章 新生物の種類、組織形態について理解する
6	12-2 各章の疾病分類体系の理解	

7	12-2 各章の疾病分類体系の理解	12-2-3～12-2-14 各章の特徴、コーディングについてを3回に分けて理解する ※コードの付け方、注意点も一緒に習得する
8	12-2 各章の疾病分類体系の理解	
9	12-2 各章の疾病分類体系の理解	
10	12-2 各章の疾病分類体系の理解	12-2-15～12-2-16 妊娠、分娩、産褥、周産期の注意点について理解する
11	12-2 各章の疾病分類体系の理解	
12	12-2 各章の疾病分類体系の理解	12-2-17～12-2-20 各章の特徴、コーディングを2回に分けて理解する 12-2-21～12-2-22 原死因コーディングについて理解する
13	12-2 各章の疾病分類体系の理解	
14	評価テスト	評価テストを実施
15	振り返り	テスト解説・振り返り（補てんが必要な部分を重点的に実施）
16	総まとめ①	12章の総まとめ①を実施
17	総まとめ②	12章の総まとめ②を実施
18	総まとめ③	12章の総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	診療情報管理Ⅱ（診療情報管理士の業務）		
必修選択	選択	（学則表記）	診療情報管理Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	・診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ ・診療情報管理士の業務指針 2021(コピ-)			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	・ナンバリングやファイリングといった、診療情報管理士に必要な技能全般を学ぶ。				
到達目標	診療情報管理士認定試験に向けて教科書の内容を理解し、且つ現場で活かせるようにする。				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	廣瀬 智子			実務経験	○
実務内容	佐賀県の医療法人清明会 やよいがおか鹿毛病院に15年間勤務。主に診療情報管理業務を担当していた。また、福岡県内の診療情報管理士養成校にて講師経験あり。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	9-1 診療情報管理士について	・診療情報管理士とは何かを理解する ・診療情報管理士の業務指針を理解する
2	9-2 診療情報管理士に求められる資質	・必要な知識と技能、視点について理解する
3	9-3 診療情報管理士の基本業務	・診療情報を体系的・一元的に管理する業務とその実施方法について理解する ・診療情報綴を安全に保存・管理する業務について理解する
4		・診療情報を点検・管理する業務について理解する ・診療情報を有効に活用する業務について理解する ・診療情報を提供する業務について理解する
5	9-4 個人情報保護の視点からの保管管理	・「第三者提供の制限」について理解する ・「開示の求めに応じる義務」について理解する ・「訂正等の求めに応じる義務」について理解する

6		・ナンバリング（番号法）、ファイリング(保管法)について理解する
7	9-5 紙カルテ運用における診療情報管理	・保存期間、保存方法、パーキングについて理解する ・紙カルテの管理方式について理解する
8		・紙カルテの貸出管理について理解する ・紙カルテの回収について理解する
9		・紙カルテの記載内容の点検について理解する
10		・電子カルテの運用、位置づけ、システム障害時の対応、 電子カルテの記録・運用指針について理解する ・電子カルテに記載する場所の明確化について理解する
11	9-6 電子カルテ運用における診療情報管理	・診療録に作成された情報の保存について理解する ・電子カルテの点検・個人情報保護への対応について理解する
12	9-7 診療情報の提供に係る業務	・院内職員・院外者・患者への情報提供について理解する ・医療機能情報の提供制度について理解する
13	9-8 診療情報管理士による改善への取り組み 9-9 診療情報管理士の活動組織	・医療の質の評価、医療安全管理、チーム医療、病院経営について理解する ・診療情報管理部門、診療情報管理委員会、適切なコーディネートに関する委員会について理解する
14	9章テスト	・40分程度のテストを実施
15	テスト解説	・テストの振り返り、総まとめ
16	総まとめ①	・9章の総まとめ①を実施
17	総まとめ②	・9章の総まとめ②を実施
18	総まとめ③	・9章の総まとめ③を実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	診療情報管理Ⅲ（DPC・医師事務作業補助者・がん登録の実務）		
必修選択	選択	（学則表記）	診療情報管理Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	18
使用教材	診療情報管理Ⅲ			出版社	一般社団法人日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	①DPC制度やがん登録制度について実務に必要な知識を習得する。 ②業務連携がある医師事務作業補助者の仕事内容・施設基準の知識を習得する。				
到達目標	①診療情報管理士として病院就職に必要な診療情報管理士の知識を習得する。 ②認定試験に必要な知識を習得する。				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	来島 裕太				○
実務内容	都志見病院、長門総合病院で薬剤事務・医療事務・診療情報管理業務・がん登録業務に携わった。現在は、山口県立総合医療センターにて、診療情報管理を全般的に行っている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	10-1 DPC制度と実務	・DPCと診療情報管理士（診療情報管理部門）との関わり ・影響調査（基礎調査）と診療情報管理士
2	10-1 DPC制度と実務	・DPCと影響調査（基礎調査）
3	10-1 DPC制度と実務	・DPC対象病院としての基本的な基準 ・診療情報管理士に対する評価
4	10-1 DPC制度と実務	・データ提出加算 ・病院情報の公表と診療情報管理士
5	10-1 DPC制度と実務	診療録管理体制加算1と2について
6	10-1 DPC制度と実務	・データ精度と診療情報管理士
7	10-1 DPC制度と実務	・DPCデータの活用について理解する
8	10-1 DPC制度と実務	・DPCデータの活用について理解する（概要説明）

9	10-1 DPC制度と実務	・ DPCデータの活用について理解する（データの理解）
10	10-2 医師事務作業補助業務について	・ 医師事務作業補助者の業務内容 ・ 医師事務作業補助者の業務と体制 ・ 医師事務作業補助者と診療情報管理士の関わり
11	10-3 がん登録の業務	・ わが国のがん対策とがん登録 ・ がん登録の種類
12	問題集①	問題集10-1～10-50の演習を行う
13	問題集②	問題集10-51～10-100の演習を行う
14	問題集③	問題集10-101～10-150の演習を行う
15	問題集④	問題集10-151～10-200の演習を行う
16	問題集⑤	問題集10-201～10-250の演習を行う
17	確認テスト	確認テスト
18	振り返り	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	診療情報管理士対策（基礎分野）Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	診療情報管理士対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）			出版社	一般社団法人 日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	基礎分野の復習を行い、診療情報管理士認定試験に必要な知識を身につける。				
到達目標	2年次に学ぶ基礎科目の総復習を行うことにより、各章ごとの疾患について理解し説明することができる。				
評価基準	テスト50%、小テスト30%、授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目	臨床医学総論・臨床医学各論Ⅰ・臨床医学各論Ⅱ・臨床医学各論Ⅲ・臨床医学各論Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武藤 久美			実務経験	○
実務内容	総合病院に27年間、看護師として勤務経験あり。なお、現在も看護師をしている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	はじめに	診療情報管理士認定試験の基礎分野について
2	3章 外傷学、先天性異常等含む	・病気の原因 ・先天奇形、変形および染色体異常 ・損傷、中毒、その他の外因の影響 ・小テスト
3		
4	4章 感染症および寄生虫症	・感染症および寄生虫症 ・小テスト
5		
6	5章 新生物	・新生物とは ・悪性新生物 ・小テスト
7		

8	6 章 血液・代謝・内分泌等	・血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 ・内分泌、栄養および代謝疾患 ・小テスト
9		
10		
11		
12	7 章 精神・脳神経・感覚器系統	・神経および行動の障害 ・神経系の疾患 ・眼および付属器の疾患 ・耳および乳様突起の疾患 ・小テスト
13		
14	テスト	これまで学習した内容のテスト
15	まとめ	テスト内容の振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	診療情報管理士対策（基礎分野）Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	診療情報管理士対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	診療情報管理Ⅰ（基礎・医学編）			出版社	一般社団法人 日本病院会

科目の基礎情報②

授業のねらい	基礎分野の復習を行い、診療情報管理士認定試験に向けて対策を行う。				
到達目標	2年次に学ぶ基礎科目の総復習を行うことにより、各章ごとの疾患について理解し説明することができる。				
評価基準	テスト50%、小テスト30%、授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目	臨床医学各論Ⅴ・臨床医学各論Ⅵ・臨床医学各論Ⅶ・臨床医学各論Ⅷ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武藤 久美			実務経験	○
実務内容	総合病院に27年間、看護師として勤務経験あり。なお、現在も看護師をしている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期の復習	確認テスト
2	8章 循環器・呼吸器系	・循環器系の疾患 ・呼吸器系の疾患 ・小テスト
3		
4		
5		
6	9章 消化器・泌尿器系	・消化器系の疾患 ・腎尿路生殖器系の疾患 ・小テスト
7		
8		
9		
10	10章 周産期系	・妊娠、分娩および産褥 ・周産期に発生した病態 ・小テスト
11		

12	11章 皮膚・筋骨格系等	・皮膚および皮下組織の疾患 ・筋骨格系 ・小テスト
13		
14	テスト	これまで学習した内容のテスト
15	まとめ	テスト内容の振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎看護学Ⅳ（医療用語Ⅱ）		
必修選択	選択	（学則表記）	基礎看護学Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	15
使用教材	①新医療秘書医学シリーズ⑦ 医療用語 ②パッとひける医学略語・看護略語			出版社	①建帛社 ②照林社

科目の基礎情報②

授業のねらい	病院で働く者が知っておくべき医療用語や略語とその意味を正しく理解し、医療従事者として医師、看護師、その他のスタッフと円滑にコミュニケーションをとりながら業務を行うための知識を身につける。				
到達目標	医療用語に関する説明を読み、それがどの用語（英語）に関する説明なのか判断できる。 また、重要な医療用語（英語）について、それがどのようなものであるかを説明できる。				
評価基準	小テスト：40% テスト：40% 授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療情報管理士				
関連科目	医療秘書検定対策・医療秘書検定特講Ⅰ・医療秘書検定特講Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	武藤 久美			実務経験	○
実務内容	総合病院に27年間、看護師として勤務経験あり。なお、現在も看護師をしている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	病院・診療機関に関する用語 人体の名称	眼科～レントゲン室、顎～腰部の各用語
2	薬に関する用語	アンブル～輸血の各用語
3	診療科別用語①	各診療科にまたがる用語 （悪液質～レシビエントの各用語）
4	診療科別用語②	循環器科の用語 （右心室～ペースメーカーの各用語）
5	診療科別用語③	呼吸器科の用語 （咽頭～人工呼吸の各用語）
6	診療科別用語④	消化器科の用語 （胃～腹腔ドレナージの各用語）
7	診療科別用語⑤	泌尿器科の用語 （陰茎～尿道留置カテーテルの各用語）
8	診療科別用語⑥	血液科の用語 （幹細胞～造血幹細胞移植の各用語）
9	診療科別用語⑦	代謝・内分泌科の用語、アレルギー科・膠原病科の用語 （下垂体～自己注射、胸腺～ループス腎炎の各用語）

10	診療科別用語⑧	脳神経科（精神科含む）の用語、 （延髄～パーキンソン病の各用語）
11	診療科別用語⑨	産婦人科の用語、整形外科の用語 （会陰～非配偶者間人工授精の各用語、黄色骨髄～非親血的整復術の各用語）
12	診療科別用語⑩	感覚器系の用語 （外耳～電気焼灼の各用語）
13	診療科別用語⑪	感染症科の用語 （易感染性～ワクチンの各用語）
14	検査に関する用語	検体～硫酸バリウムの各用語
15	テスト	学習内容全体に関するテストを行い、再度知識の定着を図る。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医科医療事務演習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	医科医療事務演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	①点数表②早見表③介護保険事務講座テキスト一式		出版社	①医学通信社②ユアサポート ③日本医療事務協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場で必要となる法規関連知識や点数表の読解スキル、介護保険の知識を習得をする		
到達目標	医療秘書技能検定2級、診療報酬請求事務能力認定試験の合格を目指す。		
評価基準	評価テスト60％ 提出物20％ 授業態度20％		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	診療報酬請求事務能力認定試験 医療秘書技能検定 介護事務検定		
関連科目	医療事務研究特講ⅠⅡ、医事CP		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	松川 勢津子	実務経験	○
実務内容	福岡県内のクリニックにて医療事務員として6年勤務し、受付・会計業務やリハビリ助手を担当していた。その後、診療情報管理士を取得し、DPCコースを修了している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	・授業の目的と内容 ・医療保険制度、公費負担医療制度の復習 ・点数改正の要点
2	医療保険制度の復習 点数改正の要点	
3	公費レセプト作成	生活保護法レセプト作成
4	公費レセプト作成	感染症予防医療法、難病医療費助成制度 レセプト作成
5	介護事務	介護保険のしくみ
6	介護事務	介護事務 練習問題集 学科問題
7	医療秘書検定対策(2級)	領域Ⅰ「医療秘書実務」～「医療関連法規」過去問題
8	医療秘書検定対策(2級)	領域Ⅰ「医療秘書実務」～「医療関連法規」過去問題

9	医療秘書検定対策(2級)	領域Ⅰ「医療秘書実務」～「医療関連法規」過去問題
10	診療報酬請求事務能力認定試験 対策	学科対策
11	診療報酬請求事務能力認定試験 対策	学科対策
12	診療報酬請求事務能力認定試験 対策	学科対策
13	診療報酬請求事務能力認定試験 対策	学科対策
14	評価まとめ	評価まとめ実施 (医療秘書検定領域Ⅰ 学科・診療報酬請求事務能力認定試験 学科、介護事務 学科)
15	評価まとめ解説 総まとめ	評価まとめ解説 15回の総まとめを実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医科医療事務演習Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	医科医療事務演習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	①点数表②早見表③介護保険事務講座テキスト一式 ④レセプト講座テキスト一式		出版社	①医学通信社②ユアサポート ③④日本医療事務協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場で必要となるレセプトチェック知識、介護保険の知識とレセプト作成スキルを習得する		
到達目標	レセプトチェックのポイントを学び実践で活かすことができる。 介護報酬請求事務技能検定試験の合格を目指す。		
評価基準	評価テスト60％ 提出物20％ 授業態度20％		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	介護報酬請求事務技能検定試験		
関連科目	医療事務研究特講ⅠⅡ、医事CP		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	松川 勢津子	実務経験	○
実務内容	福岡県内のクリニックにて医療事務員として6年勤務し、受付・会計業務やリハビリ助手を担当していた。その後、診療情報管理士を取得し、DPCコースを修了している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	レセプトチェック	概要、請求の流れ、返戻、査定、ポイント、上書き
2	レセプトチェック	初再診、医学管理、在宅医療
3	レセプトチェック	投薬、注射、検査、病理
4	レセプトチェック	処置、手術、麻酔
5	レセプトチェック	画像、リハビリ、簡単なレセプトチェック問題
6	レセプトチェック	レセプトチェック問題
7	病院実習に向けて	実習ノートの書き方、ハンドブックの使用方法 医療保険復習
8	病院実習振り返り 介護事務	実習病院状況の聞き取り、実習手帳の確認 居宅レセプト作成 練習問題集(実技1、実技2)

9	介護事務	居宅レセプト作成 練習問題集(実技3、実技4)
10	介護事務	居宅レセプト作成 練習問題集(実技6、実技7)
11	介護事務	施設レセプト作成 練習問題集(実技9、実技10)
12	介護事務	施設レセプト作成 練習問題集(実技12、実技13)
13	介護事務	施設レセプト作成 練習問題集(実技16、実技17)
14	介護事務まとめ（評価まとめ）	学科、居宅レセプト、施設レセプトのまとめ
15	介護事務まとめ（評価まとめ解説）	評価まとめ解説 15回の総まとめを実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医事CP・電子カルテ応用Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	医事CP・電子カルテ応用Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	医事コンピュータ技能検定試験 2級過去問題集 コンピュータ入力練習問題「カルテ問題集」 電子カルテの理解と演習 診療点数早見表、早見表、医療事務テキストⅡ			出版社	ケアアンドコミュニケーション 医学通信社

科目の基礎情報②

授業のねらい	1年次に身につけた医療事務コンピュータの役割、必要性を更に理解する。 医療事務コンピュータを用いた算定技術を習得する。 電子カルテ、DPCの入力技術を理解する。		
到達目標	医療事務コンピュータの役割と必要性を説明できるようになる。 コンピュータを用いて正しく請求を算定できるようになる。 電子カルテの基礎的な入力ができるようになる。		
評価基準	テスト70%　小テスト20%　授業態度10%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	医事コンピュータ技能検定試験3級、医事コンピュータ技能検定試験2級		
関連科目	医科医療事務AⅠ・医科医療事務AⅡ・医科医療事務BⅠ・医科医療事務BⅡ・ 医事CP・電子カルテ基礎Ⅰ・医事CP・電子カルテ基礎Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式で実施する		
担当教員	森本　佳子	実務経験	○
実務内容	福岡県内の総合病院にて医療事務員として5年勤務し、受付・会計業務を担当していた。現在も急患センターにて医療事務員として勤務している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	・授業目的・計画説明 ・1年次振り返り	・1年次振り返り ・2年次の授業内容について
2	外来・入院入力	・外来、入院カルテの入力復習
3	検定対策①	・学科の医事分野の演習・実技対策
4	検定対策②	・学科の医事分野の演習・実技対策
5	検定対策③	・CP関連・実技対策
6	検定対策④	・CP関連・実技対策

7	テスト実施	テスト実施
8	検定対策⑤	・ CP関連 ・ 医事学科 ・ 実技対策
9	テスト	・ テスト実施
10	DPCについて説明	・ 包括払いの説明
11	DPCとは	・ DPCとは
12	DPCとは	・ DPCとは
13	電子カルテ	・ 一連のシステムの流れを説明する ・ SOAPの説明、問診票の入力
14	電子カルテ	・ 問診 ・ 処方 ・ 注射 ・ 処置 ・ 検査 ・ 画像の入力
15	電子カルテ	・ 問診 ・ 処方 ・ 注射 ・ 処置 ・ 検査 ・ 画像の入力

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医事CP・電子カルテ応用Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	医事CP・電子カルテ応用Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	医事コンピュータ技能検定試験 2級過去問題集コンピュータ入力練習問題「カルテ問題集」 電子カルテの理解と演習 診療点数早見表、早見表、医療事務テキストⅡ			出版社	ケアアンドコミュニケーション 医学通信社

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療事務コンピュータを用いた応用の算定技術を習得する。 電子カルテ、DPCの入力技術を理解する。		
到達目標	医療事務コンピュータの役割と必要性を説明できるようになる。 コンピュータを用いて正しく請求を算定できるようになる。 電子カルテの基礎的な入力ができるようになる。		
評価基準	テスト70％　小テスト20％　授業態度10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	医事コンピュータ技能検定試験3級、医事コンピュータ技能検定試験2級		
関連科目	医科医療事務AⅠ・医科医療事務AⅡ・医科医療事務BⅠ・医科医療事務BⅡ・ 医事CP・電子カルテ基礎Ⅰ・医事CP・電子カルテ基礎Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式で実施する		
担当教員	森本　佳子	実務経験	○
実務内容	福岡県内の総合病院にて医療事務員として5年勤務し、受付・会計業務を担当していた。現在も急患センターにて医療事務員として勤務している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	外来・入院入力	現場を想定した外来カルテ・入院カルテ・電子カルテ
2	外来・入院入力	現場を想定した外来カルテ・入院カルテ・電子カルテ
3	外来・入院入力	現場を想定した外来カルテ・入院カルテ・電子カルテ
4	オーダーリングシステムについて	・オーダーリングシステムの流れと医事CPの連動について学ぶ
5	オーダーリングシステム入力	・検査のオーダー・結果入力の一連の流れについて入力
6	日報・月報・総括・マスター入力	・患者データベースを利用し、日報・月報・総括発行の学習
7	電子カルテ	電子カルテ関連知識・入力

8	電子カルテ	電子カルテ関連知識・入力
9	電子カルテ	電子カルテ関連知識・入力
10	電子カルテ	電子カルテ関連知識・入力
11	電子カルテ	電子カルテ関連知識・入力
12	テスト	テスト実施
13	電子カルテ	・電子カルテ関連知識・入力
14	電子カルテ	・電子カルテ関連知識・入力
15	全体まとめ	・1年間の振り返り、まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン実務Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン実務Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	30時間でマスターWord 30時間でマスターExcel パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 実教出版 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	多くあるWord、Excelの機能を学び、場面によって必要な機能を選択できるようになる。 パワーポイントの操作を学び、自分の研究や考えを表現できるようになる。				
到達目標	Word、Excelのさまざまな機能を用いて、文書作成・表計算ができる。 作業を効率化できる関数を理解し、操作することができる。				
評価基準	テスト50%、課題20%、授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	パソコン技能検定				
関連科目	パソコン実務Ⅰ・パソコン実務Ⅱ・パソコン実務Ⅳ・パソコン実務Ⅴ・パソコン実務Ⅵ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	久米 優子			実務経験	○
実務内容	民間企業にて入力操作研修(OS、Word、Excel、Access)を担当。「パソコン講師」として一般企業・他の専門学校にて25年勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 基本操作の確認	授業の目標、内容を確認 パソコン演習Ⅰ・Ⅱの復習
2	デザイン文書作成①	画像、ワードアート、図形、スクリーンショットについて
3	デザイン文書作成②	スマートアート、段組み、ドロップキャップ、ページ罫線について
4	文書作成2級検定問題	文書作成2級問題実施
5	関数処理基礎①	基本となる関数について
6	関数処理基礎②	基本となる関数について
7	アンケート作成	アンケートの作成方法の説明 アンケート作成の実施

8	表計算2級検定問題①	表計算2級検定問題の説明 表計算問題の実施
9	表計算2級検定問題②	条件付書式について 表計算問題の実施
10	2級検定対策①	検定問題の実施・対策
11	2級検定対策②	検定問題の実施・対策
12	応用関数関数	応用関数（VLOOKUP,DSAM,DAVERAGE,DMAX,DMIN,DCOUNT）について
13	2級検定問題まとめ	検定問題の実施・対策
14	アンケート集計①	アンケートの集計方法の説明
15	アンケート集計②	アンケート集計の実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	パソコン実務Ⅳ		
必修選択	選択	(学則表記)	パソコン実務Ⅳ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	30時間でマスターWord 30時間でマスターExcel パソコン技能検定 対策問題集 2級			出版社	実教出版 実教出版 三幸学園

科目の基礎情報②

授業のねらい	多くあるWord、Excelの機能を学び、場面によって必要な機能を選択できるようになる。 PowerPointの操作を学び、自分の研究や考えを表現できるようになる。		
到達目標	PowerPointの基本操作を学び、資料を作成することができる。 PowerPointを用いて自分の研究や考えをプレゼンテーションすることができる。 作業を効率化できる関数を理解し、自身で操作することができる。		
評価基準	テスト50%、課題20%、授業態度30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	パソコン技能検定		
関連科目	パソコン実務Ⅰ・パソコン実務Ⅱ・パソコン実務Ⅲ・パソコン実務Ⅴ・パソコン実務Ⅵ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	久米 優子	実務経験	○
実務内容	民間企業にて入力操作研修(OS、Word、Excel、Access)を担当。「パソコン講師」として一般企業・他の専門学校にて25年勤務。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります。

各回の展開

回数	単元	内容
1	データベース入門①	データベース処理について
2	データベース入門②	データベース処理について
3	パワーポイント基礎①	Power Pointの基本操作 プレゼンテーションの作成
4	パワーポイント基礎②	文字やスライドの編集 オブジェクトの作成
5	パワーポイント基礎③	表やグラフの作成 表示効果とハイパーリンクについて

6	パワーポイントの基礎④ 発表課題作成①	スライドショーの実行について 発表資料、スライド作成、発表練習
7	パワーポイントの活用① 発表課題作成②	プレゼンテーションのカスタマイズについて 発表資料、スライド作成、発表練習
8	パワーポイントの活用② 発表課題作成③	Smart Artの活用について 発表資料、スライド作成、発表練習
9	パワーポイントの活用③ 発表課題作成④	オブジェクトや表、グラフの活用について 発表資料、スライド作成、発表練習
10	パワーポイントの活用④ 発表課題作成⑤	プレゼンテーションの動作の設定について 発表資料、スライド作成、発表練習
11	パワーポイント総まとめ 発表課題作成⑥	総合問題の実施 発表資料、スライド作成、発表練習
12	スパークライン 複雑なグラフ①	複雑なグラフの作成について
13	複雑なグラフ②	複雑なグラフの作成について
14	差し込み印刷①	はがきの作成、レター作成
15	差し込み印刷②・Word内のグラフ	ラベルの作成、グラフの作成

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション技法Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション技法Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	TakeOff、ジョブカード、プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職活動時に自分をPRする力を身につける。				
到達目標	発表会や模擬面接を通じて、人前で自分の意見を話せるようになる。(自己分析・自己開示・自己主張・表現力) グループで協力して課題に取り組むことができる。(聞く力・思考力・判断力・協働力)				
評価基準	発表：70% 提出物(宿題・授業内レポート)：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	業界理解AⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	來島 裕太			実務経験	○
実務内容	都志見病院、長門総合病院で薬剤事務・医療事務・診療情報管理業務・がん登録業務に携わった。現在は、山口県立総合医療センターにて、診療情報管理を全般的に行っている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	プレゼンテーションとは 話す時の心構えと基本	・傾聴とは ・アクティブリスニング ・第一印象(メラビアン法則) ・表情チェック ・即題スピーチ ・ピクチャーフィギュア ・思考力と表現力
2	思考力①、思考力②、表現力	・思考力とは ・ストーリー構成の型 ・いろいろな立場 ・ストーリー構成の三原則 ・PREP法 ・show&tell
3	自分自身を知る①	自分の過去を振り返り、自分の興味関心事項を洗い出す
4	自分自身を知る②	長所や短所を把握し、自身の価値観を理解する
5	自己分析	ジョブカードを作成する
6	模擬面接(講義)	実習への意気込みを文章にまとめる 面接時のマナーを理解する
7	模擬面接(実践)	実習への意気込みを面接で伝える
8	業界・職種・仕事内容 研究① (病院実習・学術大会へ向けて)	個人もしくはグループでテーマを設定する
9	業界・職種・仕事内容 研究② (病院実習・学術大会へ向けて)	個人もしくはグループで決めたテーマについて調べる

10	業界・職種・仕事内容 研究③ (病院実習・学会大会へ向けて)	個人もしくはグループで決めたテーマについて調べ、調べた内容を発表用資料にまとめる
11	業界・職種・仕事内容 研究④ (病院実習・学会大会へ向けて)	個人もしくはグループで調べた内容を発表用資料にまとめる
12	業界・職種・仕事内容 研究 発表会 (病院実習・学会大会へ向けて)	個人もしくはグループで発表を行う
13	発表の振り返り	発表会での評価をフィードバックし、振り返りを行う
14	即題スピーチ グループディスカッション	医療や職業に関わるテーマでスピーチ・ディスカッションを行う
15	授業のまとめ	内容の振り返りとまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	プレゼンテーション技法Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション技法Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	15
使用教材	TakeOff、ジョブカード、プリント			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	就職活動時に自分をPRする力を身につける。				
到達目標	発表会や模擬面接を通じて、人前で自分の意見を話せるようになる。(自己分析・自己開示・自己主張・表現力) グループで協力して課題に取り組むことができる。(聞く力・思考力・判断力・協働力)				
評価基準	発表：70％ 提出物(宿題・授業内レポート)：30％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	業界理解BⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	来島 裕太			実務経験	○
実務内容	都志見病院、長門総合病院で薬剤事務・医療事務・診療情報管理業務・がん登録業務に携わった。現在は、山口県立総合医療センターにて、診療情報管理を全般的に行っている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション/実習指導① 診療情報管理士科研究発表会に向けて①	オリエンテーション 実習指導：実習先の情報収集をする/発表会に向けて：個人で調べる
2	実習指導② 診療情報管理士科研究発表会に向けて②	実習指導：履歴書を作成する 発表会に向けて：個人で調べる
3	実習指導③ 診療情報管理士科研究発表会に向けて③	実習指導：履歴書を作成する 発表会に向けて：グループで共有する
4	実習指導④ 診療情報管理士科研究発表会に向けて④	実習指導：実習先でのマナーや実習生としての心構えを学ぶ 発表会に向けて：グループで方向性を固める
5	実習指導⑤ 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑤	実習指導：実習記録の取り方、記載方法について学ぶ 発表会に向けて：調査資料(アンケート等)を作成する
6	実習指導⑥ 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑥	実習指導：実習のケースワークを行う 発表会に向けて：グループでまとめていく
7	実習指導⑦ 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑦	実習指導：実習のケースワークを行う 発表会に向けて：グループでまとめていく
8	実習の振り返り 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑧	実習の振り返りを行う 発表会に向けて：グループでまとめていく
9	就職指導① 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑨	就職指導：就職活動の仕方や決まり事について学ぶ 発表会に向けて：調査結果をまとめていく

10	就職指導② 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑩	就職指導：就職面接の傾向や質問内容について考える 発表会に向けて：調査結果をまとめていく
11	就職指導③ 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑪	就職指導：模擬面接を行う 自身の面接における課題を把握する 発表会に向けて：考察をする
12	就職指導④ 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑫	就職指導：就職活動に当たって必要な準備（書類等）について学ぶ 発表会に向けて：発表資料や発表原稿を作成する
13	就職指導⑤ 診療情報管理士科研究発表会に向けて⑬	就職指導：医療機関への電話掛けやビジネスメールについて学ぶ 発表会に向けて：発表資料や発表原稿を作成する
14	診療情報管理士科研究発表会	各々が調べたテーマで研究発表を行う
15	1年間の振り返り	1年間の授業の振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療秘書検定対策		
必修選択	選択	(学則表記)	医療秘書検定対策		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	15
使用教材	①新医療秘書医学シリーズ③臨床医学Ⅰ内科 ②新医療秘書医学シリーズ④臨床医学Ⅱ外科 ③新医療秘書医学シリーズ⑤検査・薬理学 ④医療秘書技能検定実問題集2級①			出版社	①～③建帛社 ④つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	1年次に学んだ基礎医学（解剖生理・疾患学）を基礎として、関連教科と連携しながら疾病の成り立ちや診断、治療法を学び、知識を習得する。		
到達目標	6月実施の医療秘書技能検定2級に合格できる知識を身に付け、必要に応じて説明できる。		
評価基準	テスト50%、小テスト30%、授業態度20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	医療秘書技能検定		
関連科目	看護学・医療用語Ⅱ・医療秘書検定特講Ⅰ・医療秘書検定特講Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	武藤 久美	実務経験	○
実務内容	総合病院に27年間、看護師として勤務経験あり。なお、現在も看護師をしている。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・復習	学習のねらい、目標、評価基準などの説明 MS検定概要、合格ラインを説明
2	復習	呼吸器系、循環器系、消化器系、血液疾患の復習
3	腎・泌尿器系疾患、検査学	ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎など（尿検査）
4	内分泌・代謝疾患	先端巨大症、甲状腺機能亢進症、副腎疾患など
5	感染症	感染症とは、主なウイルス・細菌感染症
6	脳・脊髄疾患	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など
7	薬理学	薬理学の基礎知識、医薬品の定義、薬理作用、薬物投与法
8	腎・泌尿器系疾患①	腎臓疾患（慢性腎不全、急性腎不全）

9	腎・泌尿器系疾患②	尿路疾患（尿路結石、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺肥大）
10	内分泌・代謝疾患①	下垂体疾患（下垂体性低身長症、尿崩症）、甲状腺疾患（甲状腺機能低下症、橋本病）
11	内分泌・代謝疾患②	副甲状腺疾患（機能亢進症、機能低下症）、糖尿病
12	内分泌・代謝疾患③	副腎疾患（クッシング症候群、アルドステロン症、アジソン病、褐色細胞腫）
13	内分泌・代謝疾患④	代謝疾患（肥満、脂質異常症、痛風、メタボリックシンドローム）
14	内分泌・代謝疾患⑤	検査学（ホルモン検査）、 薬理学（ホルモン製剤、脂質異常症治療薬、糖尿病治療薬、痛風治療薬）
15	テスト	総まとめのテストを実施（評価テスト・前期試験）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医療秘書検定特講Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療秘書検定特講Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	①新医療秘書医学シリーズ③臨床医学Ⅰ内科 ②新医療秘書医学シリーズ④臨床医学Ⅱ外科 ③新医療秘書医学シリーズ⑤検査・薬理学 ④医療秘書技能検定実問題集2級①			出版社	①～③ 建帛社 ④つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	1年次に学んだ基礎医学（解剖生理・疾患学）を基礎として、関連教科と連携しながら疾病の成り立ちや診断、治療法を学び、知識を習得する。		
到達目標	6月実施の医療秘書技能検定2級に合格できる知識を身に付け、必要に応じて説明できる。		
評価基準	テスト50%、小テスト30%、授業態度20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	医療秘書技能検定		
関連科目	看護学・医療用語Ⅱ・医療秘書検定特講Ⅱ・診療情報管理士対策Ⅰ・診療情報管理士対策Ⅱ・臨床医学各論Ⅰ・臨床医学各論Ⅱ・臨床医学各論Ⅲ・臨床医学各論Ⅳ・臨床医学各論Ⅴ・臨床医学各論Ⅵ・臨床医学各論Ⅶ・臨床医学各論Ⅷ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	武藤 久美	実務経験	○
実務内容	総合病院に27年間、看護師として勤務経験あり。なお、現在も看護師をしている。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション・復習	学習のねらい、目標、評価基準などの説明 MS検定概要、合格ラインを説明 呼吸器系、循環器系疾患、消化器系、血液疾患の復習
2	腎・泌尿器系疾患、検査学①	ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎など（尿検査）
3	内分泌・代謝疾患	先端巨大症、甲状腺機能亢進症、副腎疾患など
4	感染症	感染症とは、主なウイルス・細菌感染症
5	脳・脊髄疾患	脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など
6	薬理学	薬理学の基礎知識、医薬品の定義、薬理作用、薬物投与法
7	腎・泌尿器系疾患①	腎臓疾患（慢性腎不全、急性腎不全）

8	腎・泌尿器系疾患②	尿路疾患（尿路結石、膀胱炎、腎盂腎炎、前立腺肥大）
9	内分泌・代謝疾患①	下垂体疾患（下垂体性低身長症、尿崩症）、甲状腺疾患（甲状腺機能低下症、橋本病）
10	内分泌・代謝疾患②	副甲状腺疾患（機能亢進症、機能低下症）、糖尿病
11	内分泌・代謝疾患③	副腎疾患（クッシング症候群、アルドステロン症、アジソン病、褐色細胞腫）
12	内分泌・代謝疾患④	代謝疾患（肥満、脂質異常症、痛風、メタボリックシンドローム）
13	内分泌・代謝疾患⑤	検査学（ホルモン検査）
14	テスト	総まとめのテストを実施（評価テスト・前期試験）
15	まとめ 過去問題導入①	テスト返却 MS検定2級の過去問題

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医療秘書検定特講Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療秘書検定特講Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	①新医療秘書医学シリーズ③臨床医学Ⅰ内科 ②新医療秘書医学シリーズ④臨床医学Ⅱ外科 ③新医療秘書医学シリーズ⑤検査・薬理学 ④医療秘書技能検定実問題集2級①			出版社	①～③ 建帛社 ④つちや書店

科目の基礎情報②

授業のねらい	前期に学んだ基礎医学（解剖生理・疾患学）を基礎として、関連教科と連携しながら疾病の成り立ちや診断、治療法を学び、知識を習得する。				
到達目標	11月実施の医療秘書技能検定準1級に合格できる知識を身に付け、必要に応じて説明できる。				
評価基準	テスト50%、小テスト30%、授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	医療秘書技能検定				
関連科目	看護学・医療用語Ⅱ・医療秘書検定特講Ⅱ・診療情報管理士対策Ⅰ・診療情報管理士対策Ⅱ・臨床医学各論Ⅰ・臨床医学各論Ⅱ・臨床医学各論Ⅲ・臨床医学各論Ⅳ・臨床医学各論Ⅴ・臨床医学各論Ⅵ・臨床医学各論Ⅶ・臨床医学各論Ⅷ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	武藤 久美			実務経験	○
実務内容	総合病院に27年間、看護師として勤務経験あり。なお、現在も看護師をしている。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期振り返り 実習について アレルギー・膠原病	前期振り返り 実習手帳の説明、免疫系の働き（免疫・アレルギー反応とは、自己免疫、膠原病とは）
2	アレルギー・膠原病①	免疫系の検査、主なアレルギー疾患（Ⅰ型アレルギー）、薬理学（アレルギー性疾患治療薬）
3	アレルギー・膠原病②	主な自己免疫疾患（関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、ベーチェット病）
4	脳・脊髄疾患①	検査学（脳波、MRI、PET、脳血管造影、髄液検査、眼底検査）
5	脳・脊髄疾患②	パーキンソン病、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症
6	脳・脊髄疾患③	アルツハイマー型認知症、髄膜炎、薬理学（中枢神経系作用薬）
7	中枢神経系疾患	水頭症、脳腫瘍

8	感染症①	感染症法、感染の成立、感染経路、検査学（微生物検査）
9	感染症②	ウイルス・細菌感染症の復習、真菌・寄生虫感染症、 性行為感染症（淋菌、クラミジア、HIV、梅毒）
10	乳腺、整形外科疾患	乳癌、骨折、脱臼、骨粗鬆症
11	耳鼻咽喉科疾患	中耳炎、メニエール病、突発性難聴
12	眼科疾患	網膜剥離、白内障、緑内障、麦粒腫、霰粒腫
13	小児科疾患	肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、ダウン症候群、検査学（染色体検査）
14	婦人科疾患	妊娠・分娩の経過、妊娠高血圧症候群、子宮筋腫、子宮内膜症
15	テスト	総まとめのテストを実施（評価テスト・後期試験）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医療事務研究特講Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療事務研究特講Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	①レセプト請求の全技術②診療情報管理Ⅰ、Ⅲ③医療秘書検定問題集2級④早見表⑤診療点数早見表(点数表)		出版社	①⑤医学通信社②日本病院会③つちや書店④ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場に必要な知識の到達地点とされる認定試験や、医療秘書検定2級・診療報酬請求事務能力認定試験に合格する知識を身につける。				
到達目標	診療報酬請求事務能力認定試験合格と医療秘書技能試験2級の取得を目指す。				
評価基準	評価テスト60%、小テスト20%、課題提出20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	診療報酬請求事務能力認定試験 医療秘書技能検定2級				
関連科目	医科医療事務演習、医事CP・電子カルテⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	松川 勢津子			実務経験	○
実務内容	福岡県内のクリニックにて医療事務員として6年勤務し、受付・会計業務やリハビリ助手を担当していた。その後、診療情報管理士を取得し、DPCコースを修了している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 医療秘書技能検定2級対策	検定内容確認 医療秘書検定2級過去問題 第1「医療秘書実務～医療関連法規」、3領域
2	医療秘書技能検定2級対策	医療秘書検定2級過去問題 第3領域 医療事務
3	医療秘書技能検定2級対策	医療秘書検定2級過去問題 第3・第1領域「医療秘書実務～医療関連法規」 医療事務
4	医療秘書技能検定2級対策	医療秘書検定2級過去問題 第3領域 医療事務
5	医療秘書技能検定2級対策	医療秘書検定2級過去問題 第3・第1領域「医療秘書実務～医療関連法規」 医療事務
6	医療秘書技能検定2級対策	医療秘書検定2級過去問題 第3領域 医療事務
7	医療秘書技能検定2級対策	医療秘書検定2級過去問題 第3・第1領域「医療秘書実務～医療関連法規」 医療事務
8	医療秘書技能検定2級対策まとめ	医療秘書技能検定2級対策まとめ

9	医療秘書技能検定2級対策まとめ	医療秘書技能検定2級対策まとめ（テスト解説）
10	診療報酬請求事務能力認定試験 対策	過去問題 実技（レセプト作成）
11	診療報酬請求事務能力認定試験 対策	過去問題 実技（レセプト作成）
12	診療報酬請求事務能力認定試験 対策	過去問題 実技（レセプト作成）
13	診療報酬請求事務能力認定試験 対策	過去問題 実技（レセプト作成）
14	診療報酬請求事務能力認定試験 対策まとめ	診療報酬請求事務能力認定試験対策まとめ
15	診療報酬請求事務能力認定試験 対策まとめ	診療報酬請求事務能力認定試験対策まとめ（テスト解説）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	医療事務研究特講Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	医療事務研究特講Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	①レセプト請求の全技術②診療情報管理Ⅰ、Ⅲ③早見表④診療点数早見表(点数表)		出版社	①④医学通信社②日本病院会 ③ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	現場に必要な知識の到達地点とされる認定試験や、医療秘書技能検定準1級に合格する知識を身につける。		
到達目標	医療秘書技能検定準1級の取得を目指す。		
評価基準	評価テスト60％、小テスト20％、課題提出20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	医療秘書技能検定準1級		
関連科目	医科医療事務演習、医事CP・電子カルテ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	松川 勢津子	実務経験	○
実務内容	福岡県内のクリニックにて医療事務員として6年勤務し、受付・会計業務やリハビリ助手を担当していた。その後、診療情報管理士を取得し、DPCコースを修了している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 医療秘書技能検定準1級対策	検定内容確認 特定入院料について
2	医療秘書技能検定準1級対策	医療秘書検定準1級過去問題 第3領域「医療事務」
3	医療秘書技能検定準1級対策	医療秘書検定準1級過去問題 第1領域「医療秘書実務～医療関連法規」
4	医療秘書技能検定準1級対策	医療秘書検定準1級過去問題 第3領域「医療事務」
5	医療秘書技能検定準1級対策	医療秘書検定準1級過去問題 第1領域「医療秘書実務～医療関連法規」
6	医療秘書技能検定準1級対策	医療秘書検定準1級過去問題 第3領域「医療事務」
7	医療秘書技能検定準1級対策	医療秘書検定準1級過去問題 第1領域「医療秘書実務～医療関連法規」
8	医療秘書技能検定準1級対策まとめ	医療秘書技能検定準1級対策まとめ（評価テスト）

9	出来高レセプト作成（高度）	内容が高度なレセプト作成
10	出来高レセプト作成（高度）	内容が高度なレセプト作成
11	出来高レセプト作成（高度）	内容が高度なレセプト作成
12	医療保険・医療概論	診療情報管理Ⅰ 第1章医療概論
13	医療保険・医療概論	診療情報管理Ⅲ 第3章医療保険・介護保険制度
14	評価テスト	出来高レセプト作成・診療情報管理Ⅰ 第1章医療概論・診療情報管理Ⅲ 第3章医療保険・介護保険制度
15	総まとめ	評価テスト解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	がん登録実務対策		
必修選択	選択	(学則表記)	がん登録実務対策		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	30
使用教材	国際疾病分類 腫瘍学 ICD-O-3.1版 UICCTNM悪性腫瘍の分類第8版 院内がん登録支援HPのPDF資料		出版社	厚生労働統計協会 金原出版株式会社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	病院で2016年症例より提出義務となった「がん登録」について理解し、実務を担当できる知識を身につける				
到達目標	5大がんのがん登録についての知識を身につける 院内がん登録初級試験に合格できるレベル				
評価基準	小テスト30%、確認テスト40%、授業姿勢30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	がん登録初級者認定試験				
関連科目	診療情報管理士テキスト専門課程10章・11章・12章、診療情報管理士テキスト医学課程2章・5章				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松田 まゆみ			実務経験	○
実務内容	久留米大学病院にて診療情報管理士として診療情報管理業務全般に従事している。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	がん概論	がんの病態生理を理解する
2	がん登録概論	がん登録の歴史・制度を理解する
3	院内がん登録システム ICD-O-3の理解	標準的院内がん登録の仕組みを理解する。国際疾病分類腫瘍学ICD-O概論。ICD-O-3コーディングルール
4	標準登録様式各論①②	全国がん登録との関連も含めて、標準登録様式の定義・内容を理解する
5	標準登録様式各論③ 病期分類概論	全国がん登録との関連も含めて、標準登録様式の定義・内容を理解する。病期分類の概要を理解する。
6	病期分類各論①	胃がんの病期分類、演習
7	病期分類各論②	大腸がんの病期分類、演習
8	病期分類各論③	肝がん・肝内胆管がんの病期分類、演習
9	病期分類各論④	肺がんの病期分類、演習

10	病期分類各論⑤	乳がんの病期分類、演習
11	登録実務①	ICD-O-3演習
12	登録実務②	標準登録様式演習
13	登録実務③	登録対象・当該腫瘍初診日と診断日・来院経路と発見経緯演習
14	登録実務④　まとめのテスト	診断施設・治療施設・症例区分・まとめのテスト
15	総合登録演習　まとめテストと解説	演習とまとめのテストの解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	DPC実践		
必修選択	選択	(学則表記)	DPC実践		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	15
使用教材	・ 2022年度「DPC導入の影響評価に係る調査」実施説明資料 ・ オリジナル資料		出版社	2022年度 DPC導入の影響評価に係る調査関連情報	

科目の基礎情報②

授業のねらい	・ DPC調査（DPC導入の影響評価に係る調査）の目的を理解する ・ 様式 1 作成の知識と技術を習得する		
到達目標	・ 要領に沿って様式 1 作成ができる		
評価基準	テスト70%、授業態度30%		
認定条件	・ 出席がそう時間数の3分の2以上あるもの ・ 成績評価が 2 以上の者		
関連資格			
関連科目	医療管理各論Ⅱ、診療情報管理Ⅲ、医事CP・DPC		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	松田 まゆみ	実務経験	○
実務内容	久留米大学病院にて診療情報管理士として診療情報管理業務全般に従事している。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	様式1（概要）	DPC調査の概要、DPCの適用範囲、DPCの構造と診断群分類の構成、医療機関別係数
2	様式1（概要）	診断群分類の導入の影響評価に係る調査の概要
3	様式1（概要）	診療基本情報、傷病名情報、手術・処置情報
4	様式1（項目）	診療関連情報、補助診療情報
5	様式1（項目）	親様式・子様式とは、一般の入院パターン
6	様式1（項目）	子様式（病棟種別が異なるパターン）
7	様式1（項目）	子様式（再入院パターン）
8	様式1（子様式）	演習①
9	様式1（子様式）	演習②

10	様式 1（子様式）	演習③
11	様式 1（演習）	演習④
12	様式 1（演習）	演習⑤
13	様式 1（演習）	演習⑥
14	テスト	確認テストを実施
15	テスト解説・まとめ	テストの解説・振り返りを実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	業界理解AⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	業界理解AⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	15
使用教材	ジョブカード TAKE OFF冊子			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	診療情報管理士になるためには何を学ぶべきかを理解する。 就職活動に向けて実習で何を学んでくるのかを理解する。 実習を通して社会人に必要なことを身につける。				
到達目標	学校での学習と現場との違いがわかる。 就職活動を積極的に出来る準備ができる。				
評価基準	授業態度：60%、提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	プレゼンテーション演習Ⅰ・プレゼンテーション演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡本 奈々			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	・年間スケジュールを確認し、2年次にやるべきことを把握する。 ・1年間の目標を立てる。
2	職業理解をするために	・診療情報管理士業務についてまとめる
3	職業理解をするために	・授業内容についての理解(基礎分野)
4	職業理解をするために	・授業内容についての理解(基礎分野)
5	職業理解をするために	・授業内容についての理解(専門分野)
6	職業理解をするために	・授業内容についての理解(専門分野)
7	職業理解をするために	・授業内容についての理解(分類)
8	自己紹介文作成	・実習、就職活動に向けて作成

9	自己紹介文作成	・ 実習、就職活動に向けて作成
10	自己紹介文作成	・ 自己紹介文完成、提出
11	履歴書作成	・ 履歴書の書き方・作成時のポイントについて
12	履歴書作成	・ 履歴書作成
13	履歴書作成	・ 履歴書作成完成、提出
14	病院実習に向けて	・ 実習にふさわしい身だしなみについて
15	前期振り返り	・ 前期の振り返りを実施、後期実習に向けて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	業界理解BⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	業界理解BⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	15
使用教材	ジョブカード TAKE OFF冊子			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	診療情報管理士になるためには何を学ぶべきかを理解する。 就職活動に向けて実習で何を学んでくるのかを理解する。 実習を通して社会人に必要なことを身につける。				
到達目標	学校での学習と現場との違いがわかる。 就職活動を積極的に出来る準備ができる。				
評価基準	授業態度：60%、提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	プレゼンテーション演習Ⅰ・プレゼンテーション演習Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡本 奈々			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	・後期の目標、実習スケジュール、就職活動について
2	病院実習に向けて	・実習目標設定、履歴書の確認
3	病院実習に向けて	・実習の心構えについて
4	病院実習に向けて	・実習手帳の内容・記入時の注意事項について
5	病院実習に向けて	・実習注意事項
6	病院実習に向けて	・実習決起会
7	病院実習の振り返り	・実習手帳を元に実習で学んだこと、目標についての達成度など振り返り
8	就職活動について	・就職希望先について調べる

9	就職活動について	・ 就職活動ルールについて
10	就職活動について	・ 就職活動ルールについて
11	就職活動について	・ 求人票の見方について理解する
12	就職活動について	・ 求人票の見方について理解する
13	就職活動について	・ 求人票の見方について理解する
14	就職活動について	・ 就職活動時の試験内容について
15	1年間の振り返り	・ 自分が目指す職業について理解し、就職活動のスケジュールを立てる

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	診療情報管理士病院実習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	診療情報管理士病院実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	1	40
使用教材	①医療の接遇 ③診療情報管理Ⅰ・Ⅲ ②医療事務ハンドブック			出版社	①医療タイムズ社 ③日本病院会 ②三幸学園（日本医療事務協会）

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療機関の現場を知ること、学内の学習以外にも必要な知識・力があることを理解する。 自分たちが将来進むべき業界の理解と今後身につけるべき知識を理解し、今後の就職・学習につなげる。				
到達目標	医事課等の診療情報管理室以外の業務の流れの概要をおおまかに理解している状態 就職に向けて、現状の自分に足りないものを気が付けている状態				
評価基準	①実習先（病院）評価 70% 評価票 A（7点） B（5点） C（3点） D（1点） ②学校側評価 30% 実習記録（15点） 実習振り返り「診療情報管理士病院実習を終えて」（15点）				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	臨床医学総論・医療概論・臨床医学各論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵ,Ⅶ,Ⅷ・医療管理総論・医療管理各論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ・保健医療情報学・医療統計Ⅰ・国際統計分類Ⅰ,Ⅱ・診療情報管理ⅠⅡⅢ・がん登録実務対策・DPC実践・医科医療事務Ⅱ・医事CP・電子カルテ応用Ⅱ・業界理解AⅡ・業界理解BⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡本 奈々			実務経験	
実務内容					

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	診療情報管理士病院実習Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	診療情報管理士病院実習Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	診療情報管理士科	2	80
使用教材	①医療の接遇 ③診療情報管理Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ②医療事務ハンドブック			出版社	①医療タイムズ社 ③日本病院会 ②三幸学園（日本医療事務協会）

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療機関の現場を知ること、学内の学習以外にも必要な知識・力があることを理解する。 自分たちが将来進むべき業界の理解と今後身につけるべき知識を理解し、今後の就職・学習につなげる。				
到達目標	診療情報管理室での業務の流れの概要をおおまかに理解している状態 就職に向けて、現状の自分に足りないものを気が付けている状態				
評価基準	①実習先（病院）評価 70% 評価票 A（7点） B（5点） C（3点） D（1点） ②学校側評価 30% 実習記録（15点） 実習振り返り「診療情報管理士病院実習を終えて」（15点）				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	臨床医学総論・医療概論・臨床医学各論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵ,Ⅶ,Ⅷ・医療管理総論・医療管理各論Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ・保健医療情報学・医療統計Ⅰ・国際統計分類Ⅰ,Ⅱ・診療情報管理ⅠⅡⅢ・がん登録実務対策・DPC実践・医科医療事務Ⅱ・医事CP・電子カルテ応用Ⅱ・業界理解AⅡ・業界理解BⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡本 奈々			実務経験	
実務内容					